

本日24日 教育長に要請

突っ走ると 県が県民の思いと離れ混乱を招く

署名10,874筆(1次分)を提出

24日、「県立高校の統廃合を考える会」の5人が末松教育長を訪れ、これまでに集まった署名10,874筆を手渡し意見交換をしました。杉原高教組委員長は統廃合計画の中止を、次のように強く要請しました。

12議会で意見書採択へ

「全県19の市町議会のうち、6月議会で8つの議会が意見書を上げた。9月議会では、さらに、長浜、甲賀、日野、米原の4議会が意見書を採択する見通しだ。合わせると12議会になる。請願を不採択にした議会も「統廃合に賛成」という理由ではないし、賛否は拮抗している。地方議会からこれだけの声が高まっていることは近年にないことだ。

21日に、大津の北部で宣伝していたら、「高校統廃合なんて冗談やろ。嘉田さんがそんなことをするわけがない」と言う男性がいた。このまま突っ走れば、嘉田さんを信用している県民を裏切ることになる。高校生や中学生も、統廃合のことをまだほとんど知らない。統廃合計画案が発表されたら、なくなると分かっている学校へ入学を希望するだろうか。県がこのまま突き進むと、教育委員会や知事の思いと、地域住民や子どもたちの思いがどんどんかけ離れていく。大きな混乱を招く恐れがある。このまま突っ走るのはなく、立ち止まって、少なくとも1年間県民に説明し切ったらどうか。意見の違いは別として、その方がよいですよ」。

続いて、全教滋賀の田中委員長、母親連絡会の渡辺さんが意見を述べたあと、次のやりとりになりました。

末松「この署名は、大幅な統廃合反対と書いてある。大幅でなければよい...」

少子化もあり、私たちの思いも理解して頂いている...」

杉原「いや、今回の計画自身が『大幅な統廃再編』となっており、その計画そのものに反対している。大幅ではなく小幅、3～4校の廃止を考えているんですか」



末松「それも検討している。皆さんの意見を聞いて...。いずれにしても、子どもにとってより良い教育環境を作ることが大事だと思っている」

10数分間の短いやりとりでしたが、そこには1万筆に込められた地域住民の思いがあり、また、この思いと行政の狭間で苦悩する教育長の姿がありました。苦悩からのがれる道は、教育委員会の独立性を発揮し、教育長が「統廃合計画中止」を決断することです。少なくとも、県民への説明責任を果たして、県民の意見をよく聴いてから、事をすすめるべきです。今年度中の「計画作成」は断念すべきです。

22日大津南の行動 石山駅のテラスで15人が呼びかけ

1時間で署名82筆

22日の午後は大津南部の宣伝行動。県労連の今村事務局長、高教組の西村副委員長、岡本書記長が、膳所、石山、田上の辻々で「統廃合計画の中止」を訴えました。夕方は、石山駅のテラスに15人が集合。高教組は、石山3人、大津清陵2人、瀬田工業2人、大津1人、東大津1人、本部3人でした。他に、全教が2人、民研から1人が参加し総勢15人の行動になりました。

途中雨が降り出す中でしたが、行動する側の熱心さが伝わり、1時間で82筆の署名が集まりました。2人の女性は高校生や通行人に寄り添い、1人で20筆以上集めました。



10月までに5万筆の署名を集めましょう

高校統廃合はストップせよ

速報 第15号 2010/09/24 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)